

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 27 年度第 2 回会議 次第

平成 27 年 7 月 2 日 (木) 15 : 00 ~

I. 報 告

1. 平成 27 年度第 1 回倫理委員会議事録 (案) (平成 27 年 5 月 14 日)
2. その他
 - 1) 他学部 (薬、心身を除く学部) での倫理委員会発足の予定について
 - 2) COI (利益相反) 委員会の設置について (研究支援課)
 - 3) 研究倫理に関する研修会、講演会の実施について
 - 4) 情報の守秘に関する誓約書例 (案) について

II. 協 議

1. 申請書類審議 (事前送付資料参照)
2. 申請者との面談
3. 判定結果の決定
4. その他
 - 1) 持ち回り審査の結果について

平成27年度愛知学院大学歯学部倫理委員会委員名簿

◎委員長 ○副委員長

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	27.4.1-29.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	戸 莉 彰 史	薬理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	26.4.1-28.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	27.4.1-29.3.31
	原田 純	麻酔学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	高木 敬一	愛知学院大学法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	27.4.1-29.3.31
	黒神 聰	元愛知学院大学法学部教授	〃	27.4.1-29.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	27.4.1-29.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学人事労務課長	〃	27.4.1-29.3.31

平成27年度 第2回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	内藤 宗孝
	研究課題	CT画像を用いた上顎洞隔壁の観察
	概要	公表不可
2	実施責任者	安藤 彰浩
	研究課題	ハイブリッドレジンを用いたCAD/CAM冠の磨耗と色調安定性の臨床的評価
	概要	<p>本研究は、患者の小臼歯部に装着されたCAD/CAM冠とオールセラミッククラウンの摩擦量と色調をリコール毎(1週、6か月、1年)に定量的に測定し、口腔内における歯冠修復装置の挙動を詳細に調査するものである。</p> <p>具体的には、本調査に協力に同意が得られた患者に、CAD/CAM冠、及び、オールセラミッククラウンの補綴装置が装置された直後、個人トレーとシリコン印象材を用いて補綴装置と対合歯の印象採取し、観察用模型を本学技工部にて超硬質石膏を用いて製作する。これを基本モデルとし、リコール毎(1週、6か月、1年)にも同手法にて模型製作を行う。得られた模型を3Dスキャナを用いて形状データとする。その後、三次元画像検査ソフトを用いて、リコール毎に得られた形状データと重ね合わせを行い、その変化量即ち、摩擦量を定量的に測定する。</p> <p>また、本研究は摩擦量の測定のみでなく、補綴装置の色調変化や摩擦面のSEM観察、成功率及び生存率なども調査し、多方面から歯冠修復装置の口腔内における挙動を調査するものとする。</p>
3	実施責任者	三谷 章雄
	研究課題	歯周組織の炎症性破壊の程度に沿った新規口腔清掃指導法の効果に関する調査
	概要	公表不可
4	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
5	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
6	実施責任者	上野 温子
	研究課題	電子ビーム3次元造型機を利用したチタン製の金属床の臨床評価
	概要	公表不可
7	実施責任者	菱川 敏光
	研究課題	ヒト間葉系幹細胞を用いた他家移植による歯周組織再生療法の確立に向けた基盤研究
	概要	公表不可
8	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
9	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可

平成27年度 第2回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

10	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
11	実施責任者	夏目 長門
	研究課題	歯科診療所における口唇口蓋裂治療の実態調査
	概要	公表不可
12	実施責任者	稲本 京子
	研究課題	愛知学院大学歯学部附属病院歯内治療科における実態調査: 歯科用コーンビームCT検査
	概要	公表不可
13	実施責任者	服部 正巳
	研究課題	Additive Manufacturing Technologiesを活用した冠橋義歯学実習用模型の教育効果の検討
	概要	補綴治療において理想的な支台歯形態を理解し、イメージすることは適切な切削を行う上で必須である。また模型歯は実習において歯の形態を立体的にイメージするために有用であり、冠橋義歯学をはじめとしてさまざまな実習で使用されている。しかし今日まで理想的な支台歯形態を付与した模型歯を効率よく作製することは困難であった。本研究では人工歯に支台歯形態を付与した後に、歯科用スキャナーにて計測されたデータからAdditive Manufacturing Technologiesを活用して様々な支台歯形態および窩洞形態を有した模型歯、さらには拡大した模型歯を実習内容ごとに作製し、これがもたらす教育効果を検討する。被験者全員にテキスト教材を渡し、人工歯上で支台歯形成を行わせる。その後、理想的な支台歯形態を付与した模型歯および拡大した模型歯を参照して同様に支台歯形成を行わせる。形成された人工歯を計測し、比較する。また被験者にアンケートを配布して回答してもらう。以上より、本模型歯の教育効果を検討する。
14	実施責任者	下郷 和雄
	研究課題	オーダーメイド治療を目指した口腔扁平上皮癌の発生や進展に関わる新規分子の抽出と臨床応用の研究
	概要	公表不可
15	実施責任者	水野 辰哉
	研究課題	ポリプロピレンを用いたノンメタルクラスプデンチャー装着患者に対する満足度調査
	概要	ポリプロピレンを用いたノンメタルクラスプデンチャー装着患者に対し、VAS法を用いたアンケートを行います。 ノンメタルクラスプデンチャーの臨床症例や理工学的性質についての研究報告はありますが、患者側にとっての報告は無く、指標になると考えています。

平成27年度 第2回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

16	実施責任者	栗田 賢一
	研究課題	顎関節脱臼に対するSterilized Facial Plate System®の応用
	概要	<p>近年、本邦においては高齢化社会に伴い、顎関節脱臼症例が多く報告されている。その外科的療法の一つとして、チタン製の顔面骨固定用T字型ミニプレート(以降、従来のミニプレートと表記)を単独、もしくは移植骨と併用して、顎関節前方障害形成術(顎関節隆起増高術)が行われている。特にミニプレート単独使用は、本来の骨接合プレートとしての使用目的から拡大解釈され、特に高齢者や認知症患者の顎関節脱臼に拡大適用されている。この理由としては、高齢者や認知症患者顎関節脱臼に対してその他の有効な根治的外科的療法がなく、ミニプレート単独使用は低浸襲で即効性であるからである。しかし、従来のミニプレートは強度が十分でないため、単独使用の場合には術後にプレートの変形や破折が約30%以上と報告され、ひいては顎関節脱臼の再発が懸念されている。また、このT字型ミニプレートは使用目的が限られているため、本邦において販売中止の方向にある。このため、強度・形態等を改善した専用の「顎関節脱臼防止専用プレート」の開発が期待され、本研究申請者(栗田)はそのアイデアについて特許(4488536号)を2010年に取得した。しかし、新製品の開発には膨大な費用と時間を要し、現時点では製品化には至っていない。そこで本研究申請者(栗田)はベアーメディック社と共同で、同社の従来プレート(Sterilized Facial Plate System®)の形状を変更し、強度を増したプレートを開発した。本プレートは顔面および上顎骨肯定用として薬事承認を2015年に得て臨床使用が可能になった。(以降New STFPSとして表記)。New STFPSはプレート3点曲げ試験において、従来の顔面固定用ミニプレートと比較して約2.5倍の強度向上が確認されており、プレートの変形・破折の減少が期待される。</p> <p>今後は本学附属病院において、顎関節前方障害形成術施行にNew STFPSを単独もしくは骨移植と併用してその効果を検討し、治療の質の向上を目指すとともに、最終的には顎関節脱臼防止専用プレートの開発へその知見を反映させる。</p>
17	実施責任者	竹内 一夫
	研究課題	歯科医学的介入が要介護高齢者に及ぼす影響の評価に関する研究
	概要	<p>要介護高齢者に対して歯科治療や口腔ケアなどの歯科医学的な介入により咀嚼機能や嚥下機能などの口腔機能が向上し、さらにADLなどの全身状態まで向上するという報告がある。</p> <p>そして、超高齢社会をむかえた我が国では、今後も要介護高齢者が増加することが予測されているが、多忙な介護の現場においては高齢者の口腔機能や全身状態を効率的かつ正確に評価する方法が必要となっている。そこで本研究は、歯科医学的な介入が行われていない高齢者施設において、歯科治療や口腔ケアなどによる介入前と介入後の口腔機能や全身状態の調査を行い、介入の前後に変化の大きい項目について探索を行い、要介護高齢者の口腔機能や全身状態を効率よく的確に評価する方法を開発することを目的とする。</p>

平成27年度第2回歯学部倫理委員会議事録

日 時：平成27年7月2日（木） 15時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：千田、本田、池田、前田、戸苅、武部、原田、松原、高木、黒神、柿田、鏡山

開 会：15時00分

報 告

- 平成27年度第1回倫理委員会議事録について
委員長から、資料により報告があり、原案どおりこれを了承した。
- 他学部（薬、心身を除く学部）での倫理委員会発足の予定について
委員長から、歯学部、薬学部、心身科学部はそれぞれに倫理委員会を設けており、今回まとめて全学の倫理委員会とする相談もあったが、審査内容や方法を鑑みて、従来どおりの歯学部倫理委員会を設置しておくこととなった。
- COI（利益相反）委員会の設置について（研究支援課）
本委員会では、歯学部倫理委員会規程により配慮しており、問題ないとの説明があった。
- 研究倫理に関する研修会、講演会の実施について
今までは、全学FD委員会で開催されている講演会等に参加をしていたが、平成27年度は研究支援課の主催で開催予定と説明があった。講演者に希望があれば委員長へ伝えることとした。
- 情報の守秘に関する誓約書例（案）について
委員長から、記入例として配付したいと提案があり2案提示された。愛知学院顧問弁護士に内容を相談することとして継続審議とした。
- 条件付承認（持ち回り）について
平成27年度第1回歯学部倫理委員会にて審査し条件付承認の審査結果を通知した、審査題名「尿・唾液中コチニンを指標とした女子大学生の喫煙や受動喫煙の実態と健康障害」について申請者からそれら条件に従って修正申請があり、持ち回り審査を行った。審査結果を委員長から申請者へ直接説明して内容を配慮することを確認の上、承認することとした。

議 題

1. 倫理審査について

委員長から提議され、今回17題の申請があり、それぞれについて実施責任者または分担者から研究概要の説明を受け判定したい旨述べられ、これを承認し、次のとおり順次実施した。

審査結果について歯学部倫理委員会規程第6条4項に基づき、審査の席上で全会一致の審査判定を行っていたが、次回より各委員の審査判定結果を委員長が取り纏めて採決することとした。

17題のうち修正の上承認7件、条件付承認4件、不承認2件、その他（保留）1件、その他（非該当）3件とした。

閉 会：20時35分